

## 市長の窓

しげ のぶ  
滋宣の



イラスト  
小熊真二さん

ぼう ちゆう かん

あん ちゆう めい

“忙中**閑**あり 暗中**明**あり”

その 50

～ 焼き芋 ～

先日、家内が知人の方から焼き芋を頂いて来ました。ほくほくとして、大変おいしい焼き芋でした。

焼き芋といえば、なんといっても皮付きで丸ごと焼いたものを真っ先に思い浮かべます。一昔前までは、落ち葉を集めてたき火をし、その中でさつまいもを焼いたものですが、今は環境問題などもあり、そういう風情を味わうことができません。

焼き芋には、石に乗せて焼く石焼き芋、素焼きの大きな壺の中に丸ごと吊るして焼く壺焼きなどがあります。北風の吹く寒い日に新聞紙にくるまれた焼き芋を持っているだけで暖かく、心までほっこりしてきますが、関西では焼き芋のことを「ほっこり」ともいうそうです。

ちなみに、江戸では焼き芋のことを「十三里」と言いますが、「栗（九里）より（四里）うまい」という意味で、足してしゃれて言ったそうで、上方では味が「栗（九里）に近い」という意味で、「八里半」と言ったそうです。

ネ口の業火石焼芋の竈に燃ゆ(西東三鬼)

能代市長 齊藤 滋 宣



11月17日、官庁街落ち葉清掃を実施しました。